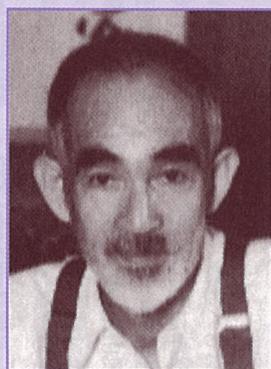


数ある近代文学の名作の中から精選し、  
作品の真髓に迫り、  
より一層の理解を深めるために——。

# 近代文学 作品論 集成

第I期  
全10巻



クレス出版

# 『近代文学作品論集成』発行によせて

編集代表  
石内 徹

二十世紀をむかえようとする今日、日本の近代文学は百花繚乱と形容したくなるほど絢爛豪華に咲き誇っている。

しかし、これらの作品は、そのまますんなり読者の求める美的享楽を受け入れるほどやさしくはない。漱石や鷗外の作品に注釈のつく時代である。作品の真髓に迫るには、作品を精読することである。と同時に、先学の研究に目を通すことが求められよう。

本集成は、近代文学の作品の中から著名なものを選び、これまでの研究で重要な論考や基礎的論考を一作品一冊にまとめた。名のみ高く入手することの困難な論考や同時代の論考も必要に応じて収録した。巻末の解説は、研究の史的流れを展望するのに役立つ。編者は近代文学に造詣が深い文学研究の専門家である。本集成が近代文学研究家のみならず、一般の読者にも魅力ある一冊一冊となることを願ってやまない。

(清和女子短期大学)

## 第1期全10巻構成

### 樋口一葉『たけくらべ』作品論集

高橋俊夫編

〔収録予定〕 三人冗語 たけくらべ(露伴・鷗外・緑雨)／一葉女史に就いて、一葉女史と其周囲(島崎藤村)／偉人暦 十一月二十三日 樋口一葉(森銑三)／たけくらべ(湯地孝)／樋口一葉(幸田露伴)／里の今昔(永井荷風)／一葉研究(和田芳恵)／一葉・われは女なりけるものを(勝本清一郎)／一葉・紅葉・吟香(森銑三)／たけくらべ巻終について(木村荘八)／「文学界」から「明星」へ(柳田泉・勝本清一郎・和田芳恵)／たけくらべ(塩田良平)／子どもたちの時間―たけくらべ試論(前田愛)／「たけくらべ」の背景(岡保生)／清方と明治と一葉と(瀬木慎一)／一葉の作品世界(前田愛)／東京の旅人(竹西寛子)／一葉と斎藤緑雨(野口武彦)／文学風土記 樋口一葉(樋田満文)／遊里文学 近代(高橋俊夫)／「たけくらべ」と樋口一葉(瀬戸内晴美・前田愛)／「たけくらべ」(松坂俊夫)／共同討議 樋口一葉の作品を読む たけくらべ(藤井貞和・小森陽一・戸松泉・山田有策)／「たけくらべ」の世界(新潮社編集部)／「たけくらべ」解釈へのひとりの疑問(佐多稲子)／美登利のために―「たけくらべ」佐多説を読む(前田愛)／「たけくらべ」解釈のその後(佐多稲子)／「たけくらべ」論考を読む(前田愛氏説への疑問(野口富士男)／成城だより 情報過多(大岡昇平)／「たけくらべ」論争(数植亨)／樋口一葉と龍泉寺界限 補説(荒木慶胤)／「たけくらべ」論(山田有策)／街の職業女性たち(関礼子)／「Child's play」を読む(神原理恵)

### 森 鷗外『舞姫』作品論集

長谷川泉編

〔収録内容〕 舞姫細評(山口虎太郎)／舞姫を読み(調天情仙)／舞姫(気取半之丞)／気取半之丞に与ふる書(相沢謙吉)／舞姫再評、三評、四評(気取半之丞)／再、気取半之丞に与ふる書(相沢謙吉)／鷗外舞姫異本考略(七松庵)／森於菟に(小金井喜美子)／森鷗外の方法―エリスとの経緯をめぐって(関良一)／舞姫(長谷川泉)／「舞姫」論―ノート(清水茂)／「舞姫」草稿について(長谷川泉)／森鷗外「舞姫」の成立(関良一)／東ベルリンに鷗外の遺跡をたずねて―「舞姫」(中々・セクスアリス)の舞台(篠原正瑛)／「舞姫」論(小堀桂一郎)／名作の舞台「舞姫」(篠原正瑛)／舞姫の頭置(長谷川泉)／「舞姫」エリスの夢と幻滅(荒井弘)／鷗外「舞姫」の碑(長谷川泉)／座談会 加藤剛主演「舞姫」めぐって(司会：長谷川泉)／舞姫「エリス」像解明のドイツ資料―植木哲「新説 鷗外の恋人エリス」(長谷川泉)

### 夏目漱石『こころ』作品論集

猪熊雄治編

〔収録内容〕 「こころ」をめぐって(玉井敏之)／こころ(遠藤祐)／淋しい明治の精神―「こころ」(桶谷秀昭)／明治の精神 周辺―漱石「こころ」私解(浅田隆)／「こころ」の死と倫理―我執との相関(秋山公男)／天皇の死をめぐって―「こころ」その他(藤井淑規)／「心」論―作品化への意志(関谷由美子)／「こころ」の語法(高田知波)／「こころ」論―先生・Kの形象に関する一考察(木村功)／漱石の東京―こころ(武田勝彦)／「こころ」論―孤児と新しい女(松下浩幸)／「静」に声はあるのか―「こころ」における抑圧の構造(押野武志)／沈黙する「こころ」の生成論的読解の試み(松澤和宏)／「こころ」における同性愛と異性愛―「恋」と「罪悪」をめぐって(小森陽一)／「こころ」論―論へ向けて―「私」の「手記」の編集意図を探る(戸松泉)／「こころ」の現象学(田口律男)／「こころ」―闘争する書物たち(篠崎美生子)／「心」における公表問題のアプリオリ―虚構化する手記(松澤和宏)

### 芥川龍之介『羅生門』作品論集

志村有弘編

〔収録内容〕 読んだもの(青頭巾)／羅生門(無署名)／「羅生門」(長野尊一)／芥川龍之介の出發―「羅生門」(忍考(小堀桂一郎)／羅生門(菊地弘)／芥川龍之介の作品の校訂上の諸問題―羅生門(石上敏)／「羅生門」―一生の摂理(勝倉壽一)／「羅生門」の地上的、動物的イメージと我執の解放(吉田俊彦)／「羅生門」―自我覚醒のドラマ(海老井英次)／「羅生門」論―異領野への出發(門)―「羅生門」を視野に入れ(宮坂寛)／「羅生門」を書かせたもの―フレイクとの関わりを中心に(水川景三)／「羅生門」論―一生を希求するかたち(谷野哲)／「行為」獲得の物語における「主体」の不在―「羅生門」考(庄司達也)／「羅生門」ノート(奥野政元)／「羅生門」の表現方法―森鷗外「金貨」の影(小林幸夫)／「羅生門」の時間(奥野政元)／「羅生門」と「橋の下」―芥川龍之介と森鷗外(松本寧至)／「羅生門」における「シマラトウストラ」(Also sprach zarathustra) 受容(渡邊正彦)／「羅生門」(併見(堀部功夫)／芥川龍之介・「羅生門」―好奇心の行方(宮崎真素美)

### 志賀直哉『暗夜行路』作品論集

町田 栄編

〔収録予定〕 花の頃の收穫―四月の雑誌の中から(西宮藤樹)／新春文壇の概評(抄(岡田三郎)／新春文壇を評す―「暗夜行路」を評して(宮島新三郎)／ブルジョア典型の作物「暗夜行路」を改造の芸術―暗夜行路について(宮島新三郎)／ブルジョア典型の作物「暗夜行路」を読む(前田河廣一郎)／「暗夜行路」から(山岸外史)／美はしき真実―志賀直哉のカムバック(杉山平助)／晩秋の感想―「暗夜行路」を読んで(安倍能成)／「暗夜行路」について(三波利夫)／「暗夜行路」をめぐって(山室静) 他多数

### 川端康成『伊豆の踊子』作品論集

原 善編

〔収録内容〕 「伊豆の踊子」―成立について(瀬沼茂樹)／伊豆の踊子(抄(長谷川泉)／青春の傷あと―「みち子もの」と「伊豆の踊子」(川嶋至)／新解釈「伊豆の踊子」―川端康成の文学的背景を探る(藤森重紀)／「伊豆の踊子」―読者のリアリティから(平山三男)／「伊豆の踊子」論(下)―虚構意識の構造(近藤裕子)／「伊豆の踊子」(鶴田欣也)／作品の中の「私」―「伊豆の踊子」とその伝説について(中山真彦)／意味としての言葉―イメージとしての言葉(小森陽一)／伊豆の踊子―ふれあいの構造(駒尺喜美)／「伊豆の踊子」の構造と「私」の二重性(上田渡)／「伊豆の踊子」について(抄(羽鳥徹哉)／「伊豆の踊子」試論(虚構のカタルシス(田村充正)／踊子の「闇」への封印―「伊豆の踊子」論(前田角蔵)／「伊豆の踊子」―批評される「私」(原善)／「伊豆の踊子」覚え書き(馬場重行)／「伊豆の踊子」考―歴史としての旅(高橋真理)／「伊豆の遠近」―「伊豆の踊子」(石川巧)／「伊豆の踊子」論―語りへの多重的構造について(三川智史)／物語の失速―小説の挫折―「伊豆の踊子」再論(石川則夫)

### 井伏鱒二『山椒魚』作品論集

松本武夫編

〔収録内容〕 井伏鱒二論―自然と人生(中村光夫)／山椒魚(関良一)／井伏鱒二「山椒魚」―「井伏文学」の象徴(大越嘉七)／井伏鱒二「山椒魚」評―チエホフ「賭」との関連(太田三郎)／井伏鱒二(佐藤泰正)／「山椒魚」の成立をめぐって(伴悦)／文法と語彙に着眼した教材研究(林四郎)／「山椒魚」(榎林混二)／井伏鱒二の「言葉」―「山椒魚」をめぐって(山田有策)／井伏文学のリアリズム(磯貝英夫)／「山椒魚」(関谷一郎)／非情の完成―「山椒魚」の改稿をめぐって(鈴木貞美)／「山椒魚」よ、どこへ行く(松本鶴雄)／もつこの「山椒魚」―資料紹介を中心に(前田貞昭)／「山椒魚」の成立と「賭」―昭和六十年版「山椒魚」への道(川崎和啓)／「山椒魚」論―改稿問題を中心として(上杉省和)／「他者」という出口―井伏鱒二「山椒魚」(田中実)／「幽閉」から「山椒魚」へ―自然主義的表現方法との訣別(佐藤嗣男)／井伏鱒二「山椒魚」論(日置俊次)／「山椒魚」―重話―論(松本武夫)／井伏氏の志と孤独(秋山駿)／井伏鱒二の笑―「山椒魚」(羽鳥徹哉)

### 太宰 治『走れメロス』作品論集

山内祥史編

〔収録予定〕 なにをいかによむか 太宰治の「走れメロス」(荒正人)／「走れメロス」鑑賞(長谷川泉)／シラーと太宰治―「人質」と「走れメロス」(井上正蔵)／太宰治「走れメロス」(山下肇)／走れメロス(佐藤善也)／「走れメロス」の素材について(小野正文)／「走れメロス」成立の背景(江後寛士)／「走れメロス」の文体(東郷克美)／「走れメロス」の暗い(下)の考察(関松昭)／「人質」と太宰治―「Bürgschaft」と「走れメロス」(住吉勇)／「走れメロス」―材源考(角田旅人)／「ひと」を信頼できる人格―「走れメロス」に描かれた三人の男をめぐって(坂本道子)／太宰治のシラー受容―「走れメロス」の素材について(丸頭寛和夫)／太宰治「走れメロス」における「路」(松本武夫)／「走れメロス」試論―主人公の「肉体」と「自意識」を主題として(鎌田広二)／「主題」なるものへの反逆(山田有策)／「走れメロス」考―メロスは誰のために走ったのか(花山聡)／「走る」ことの意味―太宰治「走れメロス」を読む(戸松泉)／「走れメロス」の魅力(渡部芳紀)／疾走する激情と肉体―「走れメロス」再論(若杉(藤平)俊明)／「走れメロス」の伝承と地中海・中東世界(杉田英明)／虚構化された素材を読み解く―譚詩「人質」と「走れメロス」(相馬正一)／「走れメロス」の着想について―秘匿された物語の論理(浜森太郎)

### 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』作品論集

石内 徹編

〔収録内容〕 「銀河鉄道の夜」の星について(草下英明)／「銀河鉄道の夜」―研究ノート(森荘己池)／決定稿「銀河鉄道の夜」―賢治の原稿を整理して(堀尾青史)／「永訣の朝」から「銀河鉄道の夜」へ(福島章)／対談 銀河鉄道の「時」(ふたたび「銀河鉄道の夜」とは何か(入沢康夫・天沢退一郎)／宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論(シヨパン二の切符(西田良子)／「銀河鉄道の夜」―その未完のモチーフをめぐって(佐藤泰正)／銀河鉄道の夜―賢治童話の「解析」(改稿の周辺(磯貝英夫)／シヨパン二の父とはなにが(吉本隆明)／「銀河鉄道の夜」の異空間(上田哲)／銀河と鉄道(見田宗介)／異次元世界を描写して「銀河鉄道の夜」(桑原啓善)／「銀河鉄道の夜」の物語としての構造―初期から最終形へのダイナミズム(斎藤純)／「銀河鉄道の夜」考―「苹果」をめぐって(萬田務)／「銀河鉄道の夜」は誰のために書かれたのか(菅原千恵子)／「銀河鉄道の夜」論(大塚常樹)／「銀河鉄道の夜」の謎(宗左近)／宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論―物語テクストと終末論との関わりについて(金戸清高)／文学者の病跡―宮沢賢治(福島章)

### 中島 敦『山月記』作品論集

勝又浩・山内洋編

〔収録予定〕 中島敦宛来簡(今日の問題社編集担当)／青春と教養―中島敦について(抄(中村光夫)／作家の狼狽―中島敦「わが西遊記」を読む(武田泰彦)／中島敦の「山月記」(松村明敏)／「人虎伝」と「山月記」(山敷和男)／「山月記」論―「古譚」の世界(佐々木充)／中島敦の「古譚」について(鷺只雄)／「山月記」論―二律背反と逆説の世界(濱川勝彦)／「山月記」論(木村一信)／「山月記」成立記者(木村東吉)／中島敦―肉体の喪失(古屋健三)／自意識と輪廻(高橋英夫)／「現代国語」自惚れ鏡(谷沢永一)／「山月記」鑑賞(勝又浩)／「山月記」読解(鹿隆)／シンボリズム「山月記」をめぐって(鷺只雄・濱川勝彦・木村一信)／「山月記」論―自己劇化としての語り(藤沼正美)／自己幻想の裁き―「山月記」論(前田角蔵)／エクリチュールの復讐―中島敦「山月記」(田中実)／文字の禍―中島敦の「虎」(川村濤)／漢学的伝統のラスト・スパーク(新保祐司)／自己と他者の「ふらふら」―中島敦の植民地体験(小森陽一)

※平成十二年十月現在(編集集中)の作品に關しましては、多少の変更を「下」で承知下さい。

● A 5判、上製丸背カバー付、本文350~400頁、新組(48×19)  
 定価本体各巻4,800円(揃定価本体48,000円) ISBN4-87733-103-4(セット) C3395

1 本集成は、近代文学の作品の中から著名なものを選び、それに関する論文資料を一作品一冊にまとめる。  
 2 排列は原則的に初出年月順とし、〈論争〉等まとめて収めたほうが読み易いものは適宜変更する。  
 3 収録に際しては、初出以降転載または単行本化されたものは、それを使用し、著者の意向による訂正も加えている。  
 4 組方は基本的に漢字は新字、仮名はそのままとする。  
 5 各巻末には、編者の解説を付ける。

● 第1回配本(2000年10月)			
② 森 鷗外『舞姫』作品論集	長谷川泉編	ISBN4-87733-105-0	
④ 芥川龍之介『羅生門』作品論集	志村有弘編	ISBN4-87733-107-7	
● 第2回配本(2001年1月)			
⑥ 川端康成『伊豆の踊子』作品論集	原 善編	ISBN4-87733-109-3	
⑦ 井伏鱒二『山椒魚』作品論集	松本武夫編	ISBN4-87733-110-7	
● 第3回配本(2001年4月)			
③ 夏目漱石『こころ』作品論集	猪熊雄治編	ISBN4-87733-106-9	
⑨ 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』作品論集	石内 徹編	ISBN4-87733-112-3	
● 第4回配本(2001年7月)			
① 樋口一葉『たけくらべ』作品論集	高橋俊夫編	ISBN4-87733-104-2	
⑧ 太宰 治『走れメロス』作品論集	山内祥史編	ISBN4-87733-111-5	
● 第5回配本(2001年10月)			
⑤ 志賀直哉『暗夜行路』作品論集	町田 栄編	ISBN4-87733-108-5	
⑩ 中島 敦『山月記』作品論集	勝又浩・山内洋編	ISBN4-87733-113-1	

● クレス出版 好評既刊書

神西清日記 昭和十八、十九年

石内 徹解説 多才な文学者の生活や感想、戦時中の社会の動き、時代を反映した興味深い見聞や体験を見事な文章で伝える。 定価九、〇〇〇円

荷風文学考

石内 徹著 孤高の人、市隠の文学。永井荷風の「人と作品」を研究した論文一四編。荷風と太宰、荷風・浅草・異郷ほか。 定価四、七〇〇円

野口米次郎選集

全3巻 丸山信解説  
 英詩人としてその名を知られる「ヨネ・ノグチ」こと野口米次郎の詩論、文学・芸術論を新に編集  
 1 俳句和歌論 三、二〇〇円 2 日本絵画芸術論  
 3 海外文学・詩論 各三、四〇〇円

市島春城随筆集

全11巻 藤原秀之解説  
 新聞記者、政治家、図書館人、文人春城——彼の体験や交友、早稲田や大隈重信、趣味である古書、書翰蒐集や印章などを綴った随筆を刊行。 揃定価一〇二、〇〇〇円

俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解説  
 江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない図像や刺記、書き込み等も多い。 揃定価一五〇、〇〇〇円

徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編  
 徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七十二名の伝記集。年譜・肖像画付。揃定価七六、〇〇〇円

芭蕉研究論稿集成

全5巻 久富哲雄監修  
 明治大正、昭和前期に雑誌に発表された芭蕉研究に関する論稿を、特集号はそのままに、その他を主題別に分類して収録。 揃定価八〇、〇〇〇円

芭蕉研究資料集成

昭和前期篇全19巻 久富哲雄監修・解説  
 俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。 揃定価二七五、〇〇〇円

蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解説  
 日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。 揃定価一八六、〇〇〇円

西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解説  
 江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。 揃定価二二六、〇〇〇円

若月保治浄瑠璃著作集

全7巻 秋本鈴史・和田修・林久美子・坂口弘之解説  
 浄瑠璃研究の第一人者若月保治の代表作を復刻。  
 ① 近松人形浄瑠璃の研究 定価二二、〇〇〇円  
 ② 人形浄瑠璃史研究 定価二五、〇〇〇円  
 ③ 近世初期国劇の研究 定価一三、〇〇〇円  
 ④ 古浄瑠璃の研究 全四巻揃定価九五、〇〇〇円

物語文学研究叢書

全26巻 神野藤昭夫監修・解説  
 明治から昭和三十年代までに刊行された、今後の物語研究に資する著作を、個々の物語を扱ったものと物語を広く扱ったものとに別けて刊行。 揃定価二二七、〇〇〇円

源氏物語研究叢書

全17巻 日向一雅監修・解説  
 明治から昭和二十年代までを中心として、源氏物語の主要な研究書を網羅。近代における研究史を顧みること、細分化し多様化した研究を統合。 揃定価一七五、〇〇〇円